

四半期報告書

(第70期第2四半期)

自 平成23年7月1日

至 平成23年9月30日

日本電設工業株式会社

東京都台東区池之端一丁目2番23号

(E00115)

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 2

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 4
- (2) 新株予約権等の状況 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 4
- (4) ライププランの内容 4
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 4
- (6) 大株主の状況 5
- (7) 議決権の状況 6

2 役員の状況 6

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 8
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 10
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 12

2 その他 16

第二部 提出会社の保証会社等の情報 17

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月14日

【四半期会計期間】 第70期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 日本電設工業株式会社

【英訳名】 NIPPON DENSETSU KOGYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 井上 健

【本店の所在の場所】 東京都台東区池之端一丁目2番23号

【電話番号】 東京3822局8811番(大代表)

【事務連絡者氏名】 財務部長 千田 哲也

【最寄りの連絡場所】 東京都台東区池之端一丁目2番23号

【電話番号】 東京3822局8811番(大代表)

【事務連絡者氏名】 財務部長 千田 哲也

【縦覧に供する場所】 日本電設工業株式会社 横浜支店
(横浜市神奈川区鶴屋町二丁目12番8号)

日本電設工業株式会社 東関東支店
(千葉市稲毛区黒砂台三丁目1番1号)

日本電設工業株式会社 北関東支店
(さいたま市北区吉野町一丁目399番地5号)

日本電設工業株式会社 中部支店
(名古屋市中村区本陣通り二丁目29番地)

日本電設工業株式会社 大阪支店
(大阪市北区豊崎三丁目17番15号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第2四半期 連結累計期間	第70期 第2四半期 連結累計期間	第69期
会計期間	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成23年 4月1日 至 平成23年 9月30日	自 平成22年 4月1日 至 平成23年 3月31日
完成工事高 (百万円)	43,008	45,610	153,747
経常利益 (百万円)	682	904	11,702
四半期(当期)純利益 (百万円)	102	52	6,229
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	△916	89	5,815
純資産額 (百万円)	85,517	91,495	92,192
総資産額 (百万円)	145,585	148,681	164,895
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	1.66	0.86	101.19
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	54.82	57.24	52.24
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	6,249	7,396	8,899
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,857	△6,900	△4,565
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△844	△535	△844
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	21,009	21,912	21,952

回次	第69期 第2四半期 連結会計期間	第70期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成22年 7月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成23年 7月1日 至 平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	11.04	4.20

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 完成工事高には、消費税等は含まれていない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。
4. 第69期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理している。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、重要な変更又は新たに発生した事業等のリスクはない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災による影響が残る中で、生産は持ち直しているものの、企業収益は減少しており、雇用情勢も依然として厳しい状況が続いている。当建設業界における受注環境は、民間設備投資は下げ止まりつつあるが設備過剰感が依然として残り、公共投資も総じて低調に推移するなど厳しい状況になった。

このような状況の中で、当社グループはグループを挙げて新規工事の受注確保に努めた結果、当第2四半期連結累計期間の連結受注高は653億円(前年同四半期比99%)となり、連結売上高は456億円(前年同四半期比106%)となった。

利益については、連結営業利益は6億38百万円(前年同四半期比158%)、連結経常利益は9億4百万円(前年同四半期比132%)となった。また連結純利益は52百万円(前年同四半期比52%)となった。

なお、当社グループの業績の特性として、販売費及び一般管理費等の固定費は1年を通して恒常的に発生するものの、売上高は第4四半期に集中する季節的要因がある。

部門別の状況は次のとおりである。

鉄道電気工事部門

当第2四半期連結累計期間は、主な得意先である東日本旅客鉄道株式会社を始めとするJR各社、鉄道・運輸機構、公営鉄道及び民営鉄道などに対して組織的営業を積極的に展開し受注の確保に努めた結果、連結受注工事高426億90百万円(前年同四半期比105%)となり、連結完成工事高は287億89百万円(前年同四半期比111%)となった。

一般電気工事部門

当第2四半期連結累計期間は、厳しい受注環境のもと顧客指向に基づいた積極的な営業活動を展開し受注の確保に努めた結果、連結受注工事高は147億7百万円(前年同四半期比98%)となり、連結完成工事高は103億40百万円(前年同四半期比95%)となった。

情報通信工事部門

当第2四半期連結累計期間は、厳しい受注環境のもと全国的な受注拡大を図り積極的な営業活動を展開し受注の確保に努めた結果、連結受注工事高は70億18百万円(前年同四半期比74%)となり、連結完成工事高は54億55百万円(前年同四半期比105%)となった。

その他

当第2四半期連結累計期間は、受注高は9億35百万円（前年同四半期比140%）となり、売上高は10億25百万円（前年同四半期比102%）となった。

（注）「その他」の事業には、不動産業及びビル総合管理等の関連事業、ソフトウェアの開発及び電気設備の設計等を含んでいる。

(2) 資産、負債、純資産の状況に関する分析

（流動資産）

当第2四半期連結会計期間における流動資産の残高は、925億80百万円（前連結会計年度末は1,079億52百万円）となり、153億71百万円減少した。減少した主な要因は、有価証券（60億円から159億98百万円へ99億98百万円増）及び未成工事支出金等（232億81百万円から374億61百万円へ141億80百万円増）が増加したが、現金預金（159億52百万円から114億13百万円へ45億39百万円減）及び受取手形・完成工事未収入金等（576億35百万円から219億66百万円へ356億69百万円減）が減少したことである。

（固定資産）

当第2四半期連結会計期間における固定資産の残高は、561億1百万円（前連結会計年度末は569億42百万円）となり、8億41百万円減少した。減少した主な要因は、有形固定資産（302億87百万円から306億26百万円へ3億39百万円増）が増加したが、無形固定資産（41億18百万円から34億41百万円へ6億76百万円減）及び投資有価証券（177億12百万円から170億68百万円へ6億43百万円減）が減少したことである。

（流動負債）

当第2四半期連結会計期間における流動負債の残高は、433億37百万円（前連結会計年度末は586億77百万円）となり、153億39百万円減少した。減少した主な要因は、支払手形・工事未払金等（363億46百万円から225億96百万円へ137億49百万円減）が減少したことである。

（固定負債）

当第2四半期連結会計期間における固定負債の残高は、138億48百万円（前連結会計年度末は140億26百万円）となり、1億77百万円減少した。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間における純資産の残高は、914億95百万円（前連結会計年度末は921億92百万円）となり、6億96百万円減少した。減少した主な要因は、利益剰余金（705億91百万円から698億63百万円へ7億27百万円減）が減少したことである。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の四半期末残高は、営業活動による資金の増加があったものの、投資活動及び財務活動による資金の減少により、前連結会計年度末から39百万円減少し219億12百万円となった。

営業活動によるキャッシュ・フローは、73億96百万円の資金増加（前第2四半期連結累計期間比11億46百万円増加）となった。これは、売上債権の減少額356億69百万円及び未成工事受入金の増加額33億14百万円による資金増加要因と、未成工事支出金等の増加額141億80百万円、仕入債務の減少額137億49百万円及び法人税等の支払額40億97百万円等による資金減少要因によるものである。

投資活動によるキャッシュ・フローは、69億円の資金減少（前第2四半期連結累計期間比40億42百万円減少）となった。これは、有価証券の償還による収入114億98百万円等による資金増加要因と、有価証券の取得による支出169億97百万円及び有形固定資産の取得による支出12億10百万円等による資金減少要因によるものである。

財務活動によるキャッシュ・フローは、5億35百万円の資金減少（前第2四半期連結累計期間比3億8百万円増加）となった。これは、短期借入金の純増加額3億20百万円による資金増加要因と、配当金の支払額7億36百万円等による資金減少要因によるものである。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、重要な変更又は新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はない。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めていない。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、79百万円である。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	198,000,000
計	198,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	65,337,219	同左	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	65,337,219	同左	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	—	65,337	—	8,494	—	7,792

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
東日本旅客鉄道株式会社	東京都渋谷区代々木2丁目2-2	6,791	10.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11-3	3,389	5.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	3,336	5.11
日本電設工業共済会	東京都台東区池之端1丁目2-23	3,069	4.70
日本コンクリート工業株式会社	東京都港区港南1丁目8-27	3,040	4.65
みずほ信託銀行株式会社 退職 給付信託 みずほ銀行口 再信 託受託者 資産管理サービス信 託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海アイ ランドトリトンスクエアオフィスタワーZ 棟	3,031	4.64
NDKグループ従業員持株会	東京都台東区池之端1丁目2-23	2,777	4.25
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1丁目2-1	1,262	1.93
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	1,218	1.86
新日本空調株式会社	東京都中央区日本橋浜町2丁目31-1	1,000	1.53
計	—	28,914	44.25

(注) 1. 上記信託銀行の所有株式数のうち、信託業務に係る株式を以下の通り含んでいる。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,389千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,336千株
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	3,031千株

2. 当社は自己株式3,779千株を保有している。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,289,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 60,579,000	60,579	—
単元未満株式	普通株式 469,219	—	—
発行済株式総数	65,337,219	—	—
総株主の議決権	—	60,579	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権の数3個)含まれている。

② 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本電設工業株式会社	東京都台東区池之端 1丁目2-23	3,779,000	—	3,779,000	5.78
永楽電気株式会社	東京都品川区大崎 1丁目19-1	74,000	—	74,000	0.11
株式会社三工社	東京都渋谷区幡ヶ谷 2丁目37-6	281,000	—	281,000	0.43
株式会社新陽社	東京都港区芝3丁目 4-13	155,000	—	155,000	0.24
計	—	4,289,000	—	4,289,000	6.56

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はない。

第4 【経理の状況】

「四半期連結財務諸表の作成方法について」

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載している。

「監査証明について」

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人青柳会計事務所による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	15,952	11,413
受取手形・完成工事未収入金等	57,635	21,966
有価証券	6,000	15,998
未成工事支出金等	23,281	37,461
繰延税金資産	3,425	3,846
その他	1,754	1,953
貸倒引当金	△96	△58
流動資産合計	107,952	92,580
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	15,080	14,734
土地	12,519	12,493
その他（純額）	2,687	3,398
有形固定資産合計	30,287	30,626
無形固定資産	4,118	3,441
投資その他の資産		
投資有価証券	17,712	17,068
繰延税金資産	3,688	3,865
その他	1,216	1,164
貸倒引当金	△80	△65
投資その他の資産合計	22,536	22,032
固定資産合計	56,942	56,101
資産合計	164,895	148,681
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	36,346	22,596
短期借入金	170	490
未払法人税等	4,241	932
未成工事受入金	7,232	10,546
完成工事補償引当金	125	124
工事損失引当金	2,373	3,170
賞与引当金	3,840	2,934
役員賞与引当金	53	14
その他	4,293	2,528
流動負債合計	58,677	43,337
固定負債		
退職給付引当金	12,651	12,617
役員退職慰労引当金	216	193
その他	1,158	1,037
固定負債合計	14,026	13,848
負債合計	72,703	57,186

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,494	8,494
資本剰余金	7,792	7,792
利益剰余金	70,591	69,863
自己株式	△1,748	△1,750
株主資本合計	85,129	84,400
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,017	709
その他の包括利益累計額合計	1,017	709
少数株主持分	6,044	6,386
純資産合計	92,192	91,495
負債純資産合計	164,895	148,681

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
完成工事高	43,008	45,610
完成工事原価	36,910	39,378
完成工事総利益	6,097	6,232
販売費及び一般管理費	※1 5,694	※1 5,593
営業利益	403	638
営業外収益		
受取利息	17	18
受取配当金	243	238
その他	108	113
営業外収益合計	369	370
営業外費用		
支払利息	—	0
持分法による投資損失	89	104
その他	0	—
営業外費用合計	89	105
経常利益	682	904
特別利益		
貸倒引当金戻入額	64	—
完成工事補償引当金戻入額	21	—
固定資産売却益	237	24
投資有価証券売却益	13	2
ゴルフ会員権売却益	2	—
保険解約返戻金	—	49
特別利益合計	341	75
特別損失		
投資有価証券売却損	0	—
投資有価証券評価損	252	52
固定資産除売却損	10	76
その他	0	—
特別損失合計	263	129
税金等調整前四半期純利益	760	850
法人税等	395	456
少数株主損益調整前四半期純利益	365	394
少数株主利益	262	341
四半期純利益	102	52

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	365	394
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,272	△310
持分法適用会社に対する持分相当額	△8	4
その他の包括利益合計	△1,281	△305
四半期包括利益	△916	89
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,155	△255
少数株主に係る四半期包括利益	239	344

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	760	850
減価償却費	999	1,302
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△68	△52
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△4	△0
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△11	796
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△875	△906
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△35	△39
退職給付及び役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	184	△56
受取利息及び受取配当金	△260	△256
支払利息	—	0
持分法による投資損益 (△は益)	89	104
有形固定資産除売却損益 (△は益)	△231	39
投資有価証券売却及び評価損益 (△は益)	238	50
売上債権の増減額 (△は増加)	42,377	35,669
未成工事支出金等の増減額 (△は増加)	△16,518	△14,180
仕入債務の増減額 (△は減少)	△19,854	△13,749
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	3,923	3,314
その他の資産の増減額 (△は増加)	1,037	△172
その他の負債の増減額 (△は減少)	△1,630	△1,508
その他	△201	28
小計	9,919	11,234
利息及び配当金の受取額	264	259
利息の支払額	—	△0
法人税等の支払額	△3,934	△4,097
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,249	7,396
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	—	△16,997
有価証券の償還による収入	—	11,498
有形固定資産の取得による支出	△2,481	△1,210
有形固定資産の売却による収入	521	60
無形固定資産の取得による支出	△1,096	△163
投資有価証券の取得による支出	△100	△100
投資有価証券の売却による収入	14	26
貸付けによる支出	△97	△53
貸付金の回収による収入	334	41
その他	46	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,857	△6,900

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	—	320
自己株式の取得による支出	△5	△1
リース債務の返済による支出	△95	△114
配当金の支払額	△739	△736
少数株主への配当金の支払額	△2	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△844	△535
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	2,547	△39
現金及び現金同等物の期首残高	18,462	21,952
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 21,009	※1 21,912

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用している。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)																								
※1 このうち、主要な費目及び金額は、次のとおりである。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">1,842百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">841百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">244百万円</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">29百万円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">420百万円</td> </tr> </table>	従業員給料手当	1,842百万円	賞与引当金繰入額	841百万円	退職給付費用	244百万円	役員退職慰労引当金繰入額	29百万円	貸倒引当金繰入額	0百万円	減価償却費	420百万円	※1 このうち、主要な費目及び金額は、次のとおりである。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">1,801百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">809百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">224百万円</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">28百万円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">△38百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">493百万円</td> </tr> </table>	従業員給料手当	1,801百万円	賞与引当金繰入額	809百万円	退職給付費用	224百万円	役員退職慰労引当金繰入額	28百万円	貸倒引当金繰入額	△38百万円	減価償却費	493百万円
従業員給料手当	1,842百万円																								
賞与引当金繰入額	841百万円																								
退職給付費用	244百万円																								
役員退職慰労引当金繰入額	29百万円																								
貸倒引当金繰入額	0百万円																								
減価償却費	420百万円																								
従業員給料手当	1,801百万円																								
賞与引当金繰入額	809百万円																								
退職給付費用	224百万円																								
役員退職慰労引当金繰入額	28百万円																								
貸倒引当金繰入額	△38百万円																								
減価償却費	493百万円																								
2 当社グループの完成工事高は、契約により工事の完成引渡し第4四半期連結会計期間に集中しているため、第1四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間における完成工事高に比べ、第4四半期連結会計期間の完成工事高が著しく多くなるといった季節的変動がある。	2 同左																								

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)														
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 <div style="text-align: right;">(平成22年9月30日現在)</div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金預金勘定</td> <td style="text-align: right;">13,859百万円</td> </tr> <tr> <td>取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)</td> <td style="text-align: right;">7,500百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△350百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">21,009百万円</td> </tr> </table>	現金預金勘定	13,859百万円	取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	7,500百万円	預入期間が3か月を超える定期預金	△350百万円	現金及び現金同等物	21,009百万円	※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 <div style="text-align: right;">(平成23年9月30日現在)</div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金預金勘定</td> <td style="text-align: right;">11,413百万円</td> </tr> <tr> <td>取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)</td> <td style="text-align: right;">10,499百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">21,912百万円</td> </tr> </table>	現金預金勘定	11,413百万円	取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	10,499百万円	現金及び現金同等物	21,912百万円
現金預金勘定	13,859百万円														
取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	7,500百万円														
預入期間が3か月を超える定期預金	△350百万円														
現金及び現金同等物	21,009百万円														
現金預金勘定	11,413百万円														
取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	10,499百万円														
現金及び現金同等物	21,912百万円														

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	739	12	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	738	12	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

当社グループは、設備工事業の単一セグメントであるため、記載を省略している。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

当社グループは、設備工事業の単一セグメントであるため、記載を省略している。

(金融商品関係)

著しい変動がないため、記載していない。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載していない。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益 (円)	1.66	0.86
(算定上の基礎)		
四半期純利益 (百万円)	102	52
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益 (百万円)	102	52
普通株式の期中平均株式数 (千株)	61,592	61,516

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【その他】

特記事項なし。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月14日

日本電設工業株式会社
取締役会 御中

監査法人青柳会計事務所

代表社員 公認会計士 本 間 哲 也 印
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 小 池 利 秀 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本電設工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本電設工業株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管している。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。